

生後 6 ヶ月を越えたら麻しん風しんワクチンを接種しましょう！

港区内、近隣の区において 0 歳児の麻しん患者数が増加しています。

麻しんは空気感染する非常に感染力の強い疾患です。

肺炎、脳炎などの合併症を引き起こすこともあります。麻しんに対する特效薬は存在せず、発症した後の対応は対症療法のみとなります。

唯一の対応策は事前の麻しん風しんワクチンの接種になりますので、接種対象となる方には早めの接種を強くお勧めします。

■接種対象となる方■

1 歳以上	定期接種
生後 6 ヶ月以上	任意接種（実費負担がかかります）



なぜ 1 歳まで待たずに、生後 6 ヶ月から接種を勧めるの？

生まれたての赤ちゃんには、母体からの移行免疫が存在します。

その移行免疫の中に麻しんの抗体も含まれますが、徐々に減少していきます。

一般的には生後 6 ヶ月から 12 ヶ月くらいで移行免疫は無くなると言われているため、移行免疫がほぼなくなった後の 1 歳以降での麻しん風しんワクチンの接種が標準となります。

ただし、移行免疫の減少には個人差がありますので、生後 6 ヶ月以降は麻しんの免疫が少なくなっているお子さんも増えてきます。

そのため、生後 6 ヶ月を過ぎたお子さん（特に保育所に入所されているお子さん）に麻しん風しんワクチンを接種することで麻しんの免疫を付けることをお勧めしています。

1 歳前に接種したら定期接種はしなくていいの？

1 歳前のお子さんには、①母体からの移行免疫が残っている人、②母体からの移行免疫が無くなっている人、が両方存在します。

移行免疫が残っている状態で麻しん風しんワクチンを接種してもしっかりした免疫が付きにくいのですが、個別に移行免疫が残っているか無くなっているかを見分けることは血液検査でしか評価できません。

1 歳以降もしっかりした麻しんの免疫を形成するために、1 歳を越えてからの定期接種は受けるようにしましょう。